

第5学年 総合的な学習の時間学習指導案

奈良教育大学 教育学専修3回生 中家麻弥

1. 単元名 防災のバトンを繋いでいこう！ ～那智勝浦町の小学生との交流プロジェクト～

(総合的な学習の時間・津市立栗葉小学校5学年)

2. 単元の目標

- ・三重県で起きた災害について知り、災害が起きたときに自分たちの命を守るための方策について理解することができる。
- ・情報を整理して調べたり、まとめたりすることができる。 (知識及び技能)
- ・小学校での防災の取り組みが十分であるのか、またより良くするためにできることは何か考え提案できる。
- ・調べたこと、分かったことを整理し、他学年の児童、他地域の小学生それぞれに分かりやすく伝えることができる。 (思考・判断・表現)
- ・災害に危機感をもち、地域の防災を自分たちで繋いでいくという意識をもって主体的に取り組もうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1)教材観

三重県では、台風による豪雨によって洪水が起これば道路が水没したり、土砂崩れで家が崩れたり、また紀伊半島の方では大水害で死者や行方不明者も出て、多くの被害が出たこともある。また、南海トラフ地震では、栗葉小学校区も土砂災害や火災、建物の崩壊など多くの被害が出ることが予想されている。そのため、災害に備えておくことが自分たちの命を守るために必要である。具体的には、避難所や避難経路を知っておく、小学校内の防災に関する備品や危険なところがないか確認する、地域の防災への取り組みを知る等、身近なことからできることを見つけられる。また、和歌山県那智勝浦町の小学校では、過去に起きた大水害を経て、災害が発生した場所を訪れ話を聞いたり、家族で防災の授業を受け家族ごとで避難計画を立てたり、また地域の高校生と連携してICTを活用した避難体験ができるゲームを授業で行ったり、様々な形で防災に熱心に取り組んでいる。このように、防災は他地域でも取り組まれており、意見交流を通して相互に比較したり考えを取り入れたりして、学ぶことができる教材である。

(2)児童観

避難訓練や防災教育の様子から、本学年には災害に関心がなく他人事と捉え、危機感を持っていない児童が多いように見受けられる。そこで、本単元を通して、自分の身の回りでいつ起こるか分からない災害に危機感を持ち、自分事として捉え、命を守るために自分たちができることを考えさせたい。また、高学年は他者の視点に対する理解、実社会への興味が出てくる時期である。本児童は、他教科で他小学校の児童と地域の魅力について交流学習をしたことがある。その際、本児童の交流や振り返りの様子から、自分たちと異なる視点を持つ他小学校に刺激を受けていた。そこで、防災に熱心に取り組んでいる和歌山県那智勝浦町の小学生や地域で防災に取り組む人たちと出会わせることで、

「私たちにもできることがあるのではないか」「私たちも防災に取り組みたい」と思えるきっかけになってほしい。

(3)指導観

自分の言葉で表現し伝えることを通して、災害で命を守ることを自分事として考えさせたい。そのために、まずは三重県で実際に起こってきた災害と被害について学び、身の回りでも災害が起こっていることを実感させる。次に、大水害を経験した和歌山県那智勝浦町の小学校での災害で命を守るための取り組みについて知り、栗葉小学校で自分たちもできることがあることに気づかせる。そして、調べる過程の中で、和歌山県那智勝浦町の小学生・地域の防災に取り組む方々などの異なる視点からの考え方に出会わせる。最後に調べたこと・分かったことをまとめ、他地域の小学生、他学年の児童や先生方に発表する活動を通して、いつ起こるか分からない災害に危機感を持ち、自分たちが今からできることにみんなで取り組ませたい。

(4)ESD との関連

○本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

- ・相互性…様々な人と関わり、様々な考え方に触れることで、自分たちができることが見えてくる。1人ひとりで孤立せず、相互に関わり合うことで、視点が広がる。
- ・連携性…小学校の他学年の児童や、地域の防災に取り組む人たち、他地域の小学生など様々な関わり合いや連携がある中で、質の高い防災に取り組むことができる。
- ・責任性…地域の防災を自分たちが繋いでいく存在であることを自覚できる。

○本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

・未来像を予測して計画を立てる力

いつ起こるか分からない災害を予測し、災害が起きたときに自分たちができることを考え、避難の経路や場所・小学校の中でできる工夫などの対策を計画できる。

・コミュニケーションを行う力

学級の児童同士、また他地域・他学年の小学生、地域の防災に取り組む人たちと関わりの中で、自分の意見を伝えたり、意見を聞いて異なる考えにも耳を傾けたりできる。

・つながりを尊重する態度

学級の児童だけではなく、他学年の児童、地域の方々や他地域の小学生、または家族とのつながりを大切にできる。また、交流した人と協力して取り組み、つながりをこれからも続けようとする事ができる。

・進んで参加する態度

いつ起こるか分からない災害を自分事として捉え、身近なできることから取り組もうとしている。また、外部の方々と積極的に意見を交わし関わろうとしたり、発表で前に出て自分の言葉で伝えようとしていたりできる。

○本学習を通して育てたい ESD の価値観

・世代間の公正・世代内の公正

過去の被害から災害の怖さを知り、自分たちが今からできることに取り組み、また他学年の児童、家

	<ul style="list-style-type: none"> ●怖いなあ、身近にも危険はあるな ●いつ私たちの身の回りで起こるか分からない 	<p>し、児童に危機感をもたせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栗葉小学校区を含むハザードマップを示す。 		
	<p>身の回りで災害が起きたときに、自分たちの命を守るためにできることはなんだろう？</p>			
<p>二 次 調 べ る</p>	<p>③自分たちで小学校を回ったり、先生方に聞いたりして小学校での防災への取り組みや工夫を見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●消火器、避難階段、防災扉 ●防災はこれだけで十分なのか <p>④地域の消防団に防災の取り組みについて話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●普段どんなことに取り組んでいるのか ●どのような思いで消防団に入ったのか ●実際どのような事例があったか <p>⑤⑥自分たちが今まで行ってきた防災と自分たちがこれからできる防災について考え、班ごとにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●小学校の中の防災に関するものや危険なところをまとめる ●自分たちのオリジナルのハザードマップを作成 ●避難訓練の時の意識を変えるために、避難訓練のルールを決める <p>⑦⑧ 和歌山県那智勝浦町の小学校と交流1 自分たちの防災について相互発表</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4年生の学習で見つけた消火器、避難階段、防災扉などを思い出させる。 ・防災器具や避難訓練が本当に効果的であるのか、十分であるのかを考えさせる。 ・ゲストティーチャーとしてお招きする。 ・事前に聞いてみたいことを考えられる時間をとっておく。 ・地域の方々の防災に対する願いや想いに気づかせる。 ・班ごとにテーマを決めさせたり、全員が役割を持って行えるような役割分担を提案したりし、子どもたちの中で活動に差が出ないようにする。 ・同じく大水害を経験した那智勝浦町の小学生との交流があることは伝える。 ・災害の怖さを忘れずに、今できることに取り組み、また小学校内でとどめず、地域の方と協力したり、取り組みを発信したりしていることに気づかせる。 →過去の被害から現在できることを考え、未来に繋いでいく役割を果たしている。 ・那智勝浦町の小学生の話を聞いて、「私 	<p>ア(1) ウ(1)</p> <p>イ(2)</p> <p>イ(1)</p> <p>ア(2)</p> <p>ア(2) ウ(1)</p>	

	<p>⑨⑩自分たちの考えた防災を見つめ直し、改めて自分たちができることを考え、班ごとにまとめる。</p>	<p>たちにももっとできることがあるかもしれない」「那智勝浦町の小学生みたいに防災に取り組みたい」と思えるような声掛けを行う。</p> <p>・悩んだところやもっとこうしたいのにも思ったところは控えておく。</p>	<p>ア(2)</p>
三次ふかめる	<p>⑪和歌山県那智勝浦町の小学校と交流Ⅱ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悩んだところやもっとこうしたいのにも思ったところを聞いてみる ・考えたことを伝える ●危険なところはここだけなのか ●手作りのハザードマップは分かりやすいものなのか <p>⑫交流学习を踏まえてもう一度、自分たちの防災を考え、まとめる。</p> <p>⑬和歌山県那智勝浦町の小学校と交流Ⅲ 自分たちの防災を伝える。</p>	<p>・考えてきたことを伝えたり、分からないところと一緒に考えたりして、自分たちの防災について意見をもらう。</p> <p>・適切に判断して、本当に良いのか、十分なのかを考えさせる。</p> <p>・意見交流とは違い、形になったものを発表させる。</p>	<p>イ(2) ウ(1)</p> <p>イ(2)</p> <p>ア(2)</p>
<p>私たちの考えた防災を未来にどのようにつなげていけばいいのだろうか？</p>			
四次ひろげる	<p>⑭⑮⑯</p> <p>これまでの自分たちの防災への取り組み、変化を振り返る。 今からできる防災の取り組みについてまとめた防災ブックを作る。</p> <p>⑰全校集会で他学年の児童、先生方に防災ブックを配り、これからみんなでできる防災を伝える。</p> <p>⑱振り返り 班での振り返り、感想を書く</p>	<p>・話し合ったり、感想を書かせたりして振り返らせ、知識や考えが深まっていることに気づかせる。</p> <p>・防災ブックを自由に作らせてみて、児童が困っている様子があれば、防災ブックの型を教師で決める。</p> <p>・自分たちが防災をこれからは繋いでいく存在であることを実感させる声掛けをする。</p> <p>・那智勝浦町にも届ける。</p> <p>・振り返りの中で、自分の防災に対する意識の変化に気づかせたり、自分事化で</p>	<p>イ(1) ウ(2)</p>

		きたことを実感させたりする。	
--	--	----------------	--

【参考資料】

- ・ 紀伊半島大水害概要 https://dwasteinfo.nies.go.jp/archive/past_doc/201108wakayama.pdf
- ・ 那智勝浦町の小学校の防災の取り組み
<https://www3.nhk.or.jp/kansai-news/20220911/2000066160.html>
<https://www.wakayama-nct.ac.jp/docs/2022031600019/>
<https://www.agara.co.jp/article/112022>